

震災の町を訪ねて

東日本大震災の被災地でダスキンの店長やお客様係にお会いしました。津波によって、家族をなくされた方や住まいを流された方などの話を現場で聞けば聞くほど、胸が痛くなりどうにかして手助けをしたいと思いがちながらも、何が出来るのかと考えさせられました。三月十一日以降、テレビや新聞などで毎日、被災状況が報道されていますが、現場をお訪ねして自分自身の五感で感じました。長い月日をかけて築き上げられてきた街が地震と津波によって全て崩壊した姿をみると、人の力の及ばない事をまざまざと思い知らされます。会社としての支援活動はできても、個人としては義援金を送ることしかできず力のなさを感じました。

多くの方が仕事の休みを利用してボランティアとして被災地で一生懸命支援活動を実践されている姿は、とても素晴らしい人間としての生き方を学びます。また、あるお客様係はご自身のご家族を亡くされとても悲しい思いの中でも、お客様の安否を気遣いながらお仕事を続けられているとの話をお聞きし、「このような方々のお力で今日のダスキンがある」のだと、感謝の気持ちで自然に合掌しました。

家族や知人を失った悲しみなどは一生消えることはありませんが、私のお会いした皆さんは、気持ちを前向きにもって、復興への努力をされている素晴らしい方ばかりでした。泣きたいときには我慢せずに思いっきり泣きましょ。そして、そのあとは悲しみをばねにして「生かされて生きている」ことに感謝し、前向きに歩んでいただきたいと思います。

読む人の
心に願って
幸せを

no.507

喜びの タネまき 新聞



写真・市谷 健「パパ、これでいいかなあ」

少年の頃の思い出です。
夏は澄んだ海に兄と一緒に潜り
魚と知恵くらべをしていました。
兄はいつも勝利者でしたが……

5 「南の海」

魚は人間より速く泳げるのにどうして人間に捕まるのか？ 広い太平洋の方へどこまでも逃げていけばいいではないかと子どものころ不思議に思っていた。

今は亡き4つ上の兄に聞いたことがある。潜ったらまずこれといった魚に目標を定め、その魚だけをずっと追いかける。そうすると岩のくぼみに身を伏せてじっと動かなくなるというのである。

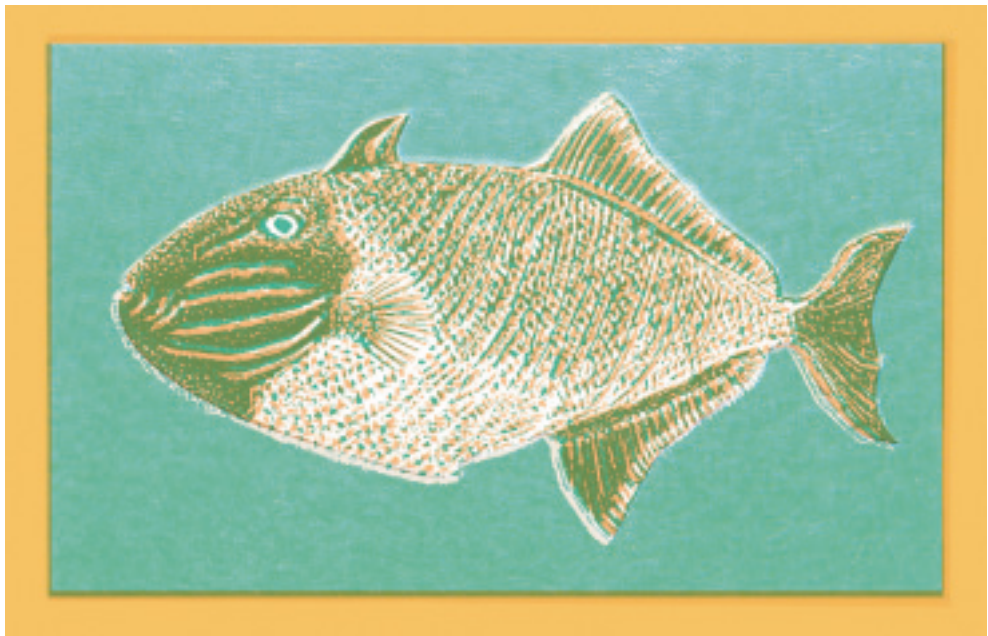
その時息が切れたら岩の形や魚の場所をバツと頭に入れて上がってくる。もう一度息を思い切って吸い込んで潜っていき、まだじっとしている魚を一気に突くというのである。

もたもたしていると魚はもう追っ手は来ないと思い、硬直状態をとき、さっと逃げるのだ。当時はこの言葉を知らなかったが「目からうろこ」。

ますます兄を尊敬した。

しかし僕の場合3〜4メートル潜ったところで耳が痛くて痛くて、そのうえ体がしめつけられるのに耐え切れなくて、魚はあきらめ、犬かき同然あわてて海面にポトンと上ってくるのだ。よくも兄貴達はこんなに苦しいことを平気で、出来るものだ。足がひらひら見えなくなるまで深く潜れるのだから感心した。

うすうす僕は漁師に向かないのかなーと思ったのだった。



自然の中で

絵と文 版画家 中野洋一

版画家、陶彫家。鹿児島生まれ。故郷の風物等をテーマに木版画や陶彫を制作。1995年には朝日新聞日曜版のカットを連載。オランダ国際版画ビエンナーレ展入選など国際的にも活躍。

爽やかハーブの香り 「大人っぽいフルーツゼリー」

ローズマリーの爽やかな香りとワインの風味が合わさった大人っぽいゼリーです。おもてなしの最後にサツと出して自慢したい、そんな一品。夏の疲れも吹き飛びます！

お料理研究家 こいけりえ

◎作り方(4人分)

●下準備

粉ゼラチン10gは水大さじ6に入れてふやかす。生のローズマリー5g弱は枝の先の部分をトッピング用に4つ取り除き、残りの葉は細かく刻んでおく。

グレープフルーツとオレンジ各1個は、皮をむいて、袋から果肉を取り出し、グレープフルーツは一房を半分にカットしておく。ゴールドキウイ1個も皮をむき、端を除いて4等分に輪切りにし、さらに半分に切って半月型にする。

●ゼリーを作る

鍋に白ワイン1カップとグラニュー糖50g、刻んだローズマリーを入れ、火にかける。煮立ったらすぐボウルに移して、ハチミツ小さじ2を入れて溶かし、60℃位に冷ましておく。鍋に水1カップとふやかしておいたゼラチンを入れて煮溶かし、こちらも60℃位に冷ます。



ローズマリーは4つ取り除き、残りを細かく刻む



グレープフルーツは1房を半分にカット

●仕上げ

ゼラチンを絶対に沸騰させないよう、気をつけること。ワインの入ったボウルにカットしたグレープフルーツとオレンジを加え、さらに冷ましたゼラチンを加えて混ぜ合わせる。



で き ゃ り



いたれり、つくせり。
神戸市 寺島幸子

「いっしんぶん、て、このことかな。」
東京都八王子市 引間俊雄



「歯がはえたから、今日から実行」
長野県箕輪町 桑沢京子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております！(詳細は7ページ)

おやつ時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ





木のいのちをもらった
日本のあかりを復活

和ろうそく

照って明るく、降って明るい山陽の自然。山口県田布施町は緑豊かなふるさと。木からとったロウ(木蠟)を江戸時代さながらの製法で甦らせた「ハゼの実ロウ復活委員会」をお訪ねしました。

江戸時代の日本人に感心 なんと、大きな仕掛け!

昔むかし、電気がなかったころのお話です。江戸時代に灯火親しむとなれば行灯とろうそく。行灯は油皿に魚油やなたね油を入れて…。ではろうそくは? うーん、知りませんでした。

14年前に始まった「ハゼの実ロウ復活委員会」。事務局長の岡部正彦さんは、「維新より前、毛利藩からの伝統があったのネ」とおっしゃる。

山口県は周防の国と長門の国が合わさって防長と言います。長州のほうがポピュラーかも。藩は財政の維持発展のために特産品を定め、米・塩・紙・ロウの生産を奨励し、この四つの色の白い物産「防長四白」から明治維新の資金が出たそうです。

長州というと、一途な勉強家というイメージ。維新の頃の物語の読み過ぎかもしれませんが、たとえば吉田松陰の松下村塾の、和ろうそくを灯して書を読む雰囲気は、端正な感じがします。

現代の委員会の皆さんは、生き生きと行動的。当日は11名が午前中からロウを絞り、お昼を一緒に食べて賑やかに情報交換。月一度の例会です。

さて、肝心の作り方。まずハゼの実を木に登って採取。かぶれる人も多く大変です。採った実は自然乾燥の後、房からはずし、白について果肉と種子に分けます。粉状になった果肉がロウの原料。

足踏み式の白は台唐臼(だいからうす)です。「昔は農家にはどこでも1台あったんだ。大豆の皮を取ったり、お餅ついたりしたんだよ」えーっ、こんなスグレモノが!と、思わず絶句。

果肉の粉を布に包み、小1時間せいろで蒸して、布ごと搾り機の石臼の上に。この搾り機が圧巻。立木式絞り機は、古い絞り機や江戸時代の文献を参考にして、委員会が独自に作り直しました。

「太い柱はユーカーリの木、黒っぽいクサビの木はケヤキ」と強度にこだわって発注。クサビは水で湿らせ、「よいやせーの、どーん!」と両側から打ち込んで、下に圧力をかけて搾るのです。

これは楽しい。楽しいと同時に、江戸時代の人々の工夫や物を生かす頭の良さに感心。それを復活させた委員会の人々にも、脱帽!でした。



足踏み式の台唐臼はテコの原理で軽々と動く。



搾りは2人の息が合わないとうまく圧力が加からず、ロウが搾れません。



ロウは実の重量の15~20%。貴重品です。



果肉のせいろ蒸し。約50℃でロウが溶ける。



乾燥させたハゼの実。ぶどうの房状になり、夏は緑色。初冬、茶色になった頃に採る。

和ロウソクは生ロウを滋賀県の専門家に送って手掛け形成。販売もしています。

活動していると面白いし 自分が豊かになります

委員会のメンバーは面白いことに感度良く、即実行。ロウの製法が中国から九州は熊本に伝わったと知れば、バスを仕立てて研修旅行。ロウは日光にさらすと白くなる

と教わり、「100年、1000年繋がってきたもの」に思いを馳せたりします。「活動していると自分が豊かになるわ」と女性たちは特に元氣。「男性も一歩前へ、という意見があったの。歳になると消極的になるでしょ」と開放的に笑います。お昼の手料理も美味しく暮らし上手なでした。

いつかう、岡部事務局長は一途に和ろうそく。「灯芯は和紙にイグサを巻き付けてあつて、太い芯が燃えて長くなると芯切りするの」と実演もしてくれました。

委員会では毎年8月の第一日曜日、田布施川の河畔で、2千本のろうそくを灯す祭りを開催。点火がなにしる大変。人が身動きできないほど集まるので「引くに引けなくなつて」毎年続けています。

勉強家の長州人というけれど、実際の「生きた学問」だと感じました。祭りの後、ハゼの葉が赤々と輝く秋には、和ろうそくを灯したい気分です。



「毎月集まる時は、みんなで食べるご飯が楽しみのひとつですね」会員は20~30名。



孫の夏休み

福岡県豊前市 我毛マサ子

「お母さん、お盆は帰れそうもないの。子供だけ帰りますからお願いします」。埼玉の娘からの電話である。今度は滋賀の息子からも同じような電話がかかってきた。

数日後、新幹線で小4の女の子が一人で東京から、小6、小4の男の子二人が京都から旅をして来た。ホームで待つ私に車内から「ごやかに手を振る孫を見たとき、ほっとしてその場に座り込みそうになった。几帳面な主人は、孫達を集め、時間割や生活上の注意点を話していた。翌日はお弁当持参で遠足。目的地に着くなり、孫達は冷たい川で泳いだり、網を片手に魚を追ったりしてはしゃぐこと2時間。しかしその翌日、男の子が39度の発熱。続けて女の子も40度を越す熱を発してしまった。折も折、病院は盆休み。色々試してはみたものの熱は一向に下がらず、青くなって急患センターへ駆け込み、それから、熱は引いていった。

2週間後、元の静かな生活に戻ってみると、孫達が残した生活の匂いが懐かしく、孫に振り回された心労も忘れて、来年の帰省を早くも待ち望む二人である。

——盛沢山で、めぐるめく夏休み——



私の名前

岡山県総社市 岸本恭子

うやうやしい。恭子の『恭』を辞書でひくと、この様に載っている。亡き父が名づけた名前前で、結構お気に入りだ。先日、電話での出来事。

「きょう子は、京都の『京』ですか?」「いいえ。恭賀新年の『恭』です。うやうやしい、と書きます」…でも、若い人だったため、なかなか分かってもらえず、仕方なく、「深キヨンの『恭』でえす」と言つと、そばにいた弟が私の顔を見て一言。「えらい違いだなあ」なんて失礼な! いいのよ。顔が見えないんだから。

——ホントは歳なんだけど、ヒミツよ。



「母ちゃん!」

三重県名張市 横山智子

9歳の息子と4歳の娘は、些細な事で毎日ケンカばかり。あまりにうるさいので、「うるさい! 仲良く出来へんの!?」暑さや忙しさも手伝い、私が大声でブンブン怒ると、「さやこが赤ちゃんの時、かわいかった? おっぱいおいしいって言ってた?」と急に娘は笑顔。 「母ちゃん! ちゅき好き!」と忘れずに言ってくれます。私もつられて笑顔になり、「え? うーん。そうだなあ。2人とともにすぐ可愛かったよ。おっぱいもいっぱい飲んだな」さっきまでのイライラはどこへやら。小さかった2人を思い出すだけで優しい気分。子どもは覚えてないけど、赤ちゃんを抱いていた時は、こんなイライラしなかったなあと思ふ。 ホンワカさせてくれる娘の一言に、今日も一日元気をもらって、母ちゃん頑張っています。

——「好き」には弱いですわね。



ふるさと

埼玉県越谷市 小林晴香

夫の実家は、長野県八ヶ岳のふもとにあります。山に囲まれた、澄んだ空気がとても気持ちの良い場所で、夏は実家の広い庭にある藤の木のカートンで夕涼みをし、冬は近くの小さなゲレンデで、2歳の娘とソリや雪遊びをします。身体で四季を感じるこの出来る田舎です。

帰る時はお義母さんが野菜などを包んでくれます。ある時、埼玉の家に帰ってきて荷物片付けていて、新聞紙の包みを開けた瞬間です。「泥つきの長ネギ! 長野の家の廊下の匂いだ!」一瞬、長野の家に戻った気がしました。匂いでフラッシュバックした感じでした。

結婚して3年。まだ何度も帰っていないのに、こんなに懐かしい気持ちにさせるこの匂いは、まるで魔法のようです。春にまた帰るのが待ち遠しい今日この頃です。

——思いすぎるんですわね。



駐輪場

大阪府高槻市 米崎則子

先日、近所のスーパーでたくさん買い物をしました。その帰りのことです。60歳過ぎの男性が駐輪場から自転車を出そうとしていました。隣に並んでいた自転車にふられて、あつという間に7、8台が将棋倒しになりました。私は両手に荷物を持っていましたが、すぐに置いて一緒に起こし始めました。すると、近くにいた子ども連れの若いお母さんが、「ここで待つてなさい」と子どもに言うつと、一緒に自転車を起こしてくれました。

最近の若い人は…と、よく言う人がいますが、こんな人もいるんだなと、久しぶりに嬉しい気持ちになって、帰路につきました。今の若いお母さんだつて、やるもんです!

——そつと、元気づちいますー



雷

千葉県長生村 東間晴美

雷が鳴っていた夜のことです。隣の部屋で寝ている長女が心配でしたが、眠い方が勝つて、のぞきに行く事もなくそのまま朝を迎えました。起きてビックリ! 長女は次女の隣にびつたりとくっつき、いつの間にか私達の部屋に入っ一緒に寝ていたのです。

自分から「一人で寝るから」と出て行ってから、初めて古巣に帰ってきた長女。やっぱりまだ可愛いところも残っていたんだなあと思ふ。えましさも混じつて、どことなく、嬉しいような母の気持ちでした。

寂しくなったときや、悲しくなったときには、「いつでも泊まりにきていいよ、おねえちゃん」でも4人部屋にはちょっと狭いけどネ…。

——迷ったら、帰っておいで。



三重県鈴鹿市 宮本亜紀

「はあ〜い! げんき〜?」

あなたのお便りや写真をお寄せください

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先
〒163-0223 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

無料 おそうじ相談 実施中!
ダスキンコールセンター 平日の9:00~17:00 0120-100-100

No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます
http://www.duskin.co.jp/torikumi/tanemaki/index.html

●2ページの中野洋一さんのアトリエ
〒896-1301 鹿児島県薩摩川内市鹿島町蘭牟田2131-203
●4-5ページの「たぶせの和ろうそく」の連絡先
ハゼの実口ウ復活委員会 代表 岡部正彦(カントリー工房)
〒742-1513 山口県熊毛郡田布施町麻郷3439-10
電話:0820-55-5402 FAX:0820-55-5711
http://www.7.plala.or.jp/LOG/hazestory.top.html

燈々無尽

祈りましょう
どこで、どんな事が起こつてきても、神を祈ることの出来る人には、その人の心に、神が生まれて、力が出てきます。
たとえどんな困難に直面しても、それを不平としてではなく、喜びにかえて、ありがたいと次々に、すなおに生きてゆく姿は、私共も学びたいと思います。信ずることの出来ない人は、心のさびしい人です。

鈴木清一

チャレンジ!

～あの瞬間を今に～

NPO法人すまいるの仲間と指文字で会話している門川さん(左)

★'89 アメリカ合衆国

第8期海外研修派遣生
NPO法人すまいる理事長
門川紳一郎さん
(視聴覚二重障害)

vol.3

視覚と聴覚に障害のある私は両手甲に左右の人差し指、中指、薬指でタイプライターのように点字を打つ指文字でコミュニケーションしてきました。しかし、アメリカでは手話がコミュニケーション手段。研修後、時間をかけてアメリカ手話をマスターしました。どんなことにも果敢にチャレンジしたい。夢は視聴覚二重障害者の訓練施設を日本に作ること。多くの人の可能性を広げるきっかけをつくりたいです!

このコーナーについては
広げよう愛の輪運動基金まで。

☎06-6821-5270 HP (<http://www.ainowa.jp/>)

今年30周年を迎える愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障害のある若者に、福祉先進国での研修支援を行っています。

**使い終わった活性炭は
培養土 (ばいようど) に**

ダスキンは、浄水器の使用済みカートリッジから活性炭を回収し、ガーデニングの培養土に利用しています。活性炭入りの培養土はニオイが少なく、肥料の保ちを良くし不純物を吸着するため、植物の生長にとっても良いとされています。



よく育つ
エコな土
なのよ



(ダスキン環境シンボルマーク)

エコタネ
身近に、未来に、エコのタネまき。

詳しくはwebで
「ダスキンのエコ」
を検索してネ。

お楽しみクイズ

浄水器の活性炭を
何に利用する？

ばい 培 養



正解者の中から30名様に
「キッチンきれいセット」を
プレゼント!



下記の要領でご応募ください。

- ◆ハガキに
 - ①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥性別
 - ⑦電話番号⑧現在ご利用のダスキンの店名をご記入の上、下記あて先までお送りください。
- ◆あて先
〒163-0265
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.507」
クイズプレゼント係
- ※お楽しみクイズ専用の住所不要のあて先です。
- ◆締め切り 平成23年9月2日(金)当日消印有効
- ◆ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。
- ◆当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
(平成23年9月下旬お届け予定)
- ◆応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703
- ※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

郵便番号は
お間違いなく!

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。
no.505のクイズの答えは「ペット(ボトル)」でした。

ダスキンのお客様係募集中!!

詳しくはwebで お客様係 検索

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。



携帯からも
アクセス

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**
発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
編集：「喜びのタネまき新聞」編集室
〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)
TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771
【お客様の個人情報の取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。
■ダスキンコールセンター
0120-100100 www.duskin.jp